

我が国最古のカラマツ人工林

浅間山カラマツ希少個体群保護林

設定目的

当該保護林内のカラマツは、江戸時代末期の嘉永三年（一八五〇年）頃に当地域を治めていた小諸藩によって植栽されたものと伝えられています。

現存するカラマツの人工林としては、我が国で最も古い造林地として学術的に貴重であるため、個体群を保護・管理しています。

地況・林況

長野・群馬県境に跨る浅間山（二、四九三㍎）南麓、標高約一、〇〇〇㍎の緩やかな斜面に位置しており、上層にはカラマツ、下層木にはヒノキやウラジロモミが生育しています。

シリーズ

中部の保護林(第43回)

所在地
長野県北佐久郡御代田町



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、コードを読み込んでください。